大阪錦画日々新聞紙 第廿九号
明治八年四月三日邏卒井上徳三郎八西成三區上福島村を巡邏
せし時二人の童子木枝の先を鋭くし地に投付て刺し勝負を
為て互に争ひ挑みあふを近村なれバ早く二童を連て
其家に帰らせ尋ぬるに同村安藤佐七が伜木吉一木松なる故
親へ説諭して最早八才五才の童子八九才の年頃なるに
遊戯に耽らしめるハよろしからずと述べ其家困究して
学校へ費行届かざるよしを聞き井上不便に
思ひ二児を同村事務
所へ連行き自ら金一円
差出し入校の筆墨紙を
あたへ後々良き子供となり
学ぶに導きしに親の歓喜なるぞ
巡卒の深き志天意に叶ひ人民保護の
有様実に感賞すべきものなり
報知六百弐拾五号の抄書
摺九一